ある。この増加を地域別にみると県南地域の978人（増加率69.9％）が最も高く，以下，県北地域170人（同7.8％），県西地域132人（同19.0％），鹿行地域26人（同7.3％）の順となっている。この結果，4地域における外国人の占める割合は県南地域が今回，県北地域を上回って，最も多い2,378人（全体のうち40.1％）となり，以下，県北地域2,349人（同39.6％），県西地域828人（同14.0％），鹿行地域380人（同6.4％）の順となっている。（図－7）

次に市町村別にみると，外国人人口の1割以上が常住している市町村は桜村（842人），水戸市（841人），日立市（622人）の2市1村となっている。また，100人以上の外国人が常住している市町村は，そのほか土浦市（381人），谷田部町（273人），取手市（209人），下館市（182人），勝田市（170人），神栖町（119人），北茨城市（111人），古河市（109人）となっている。特に今回，増加の多かった市町村は，桜村（552人増），谷田部町（126人増），勝田市（89人増），取手市（72人増），土浦市（63人増）などである。

また，今回の外国人を国籍別にみると，韓国，朝鮮が3,919人（割合66.0％）と最も多く，以下，中国777人（同13.1％），アメリカ261人（同4.4％）の順となっている。

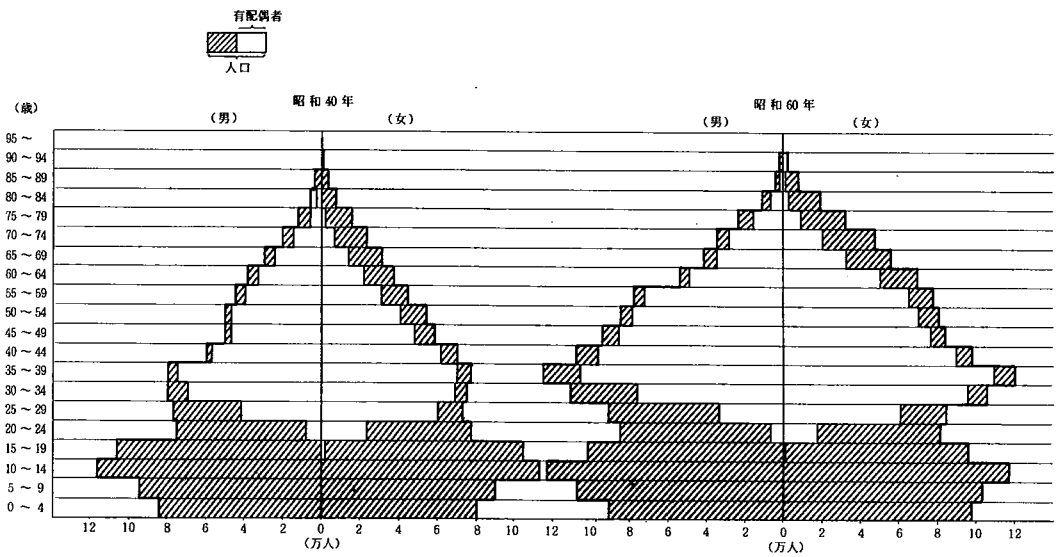
3　人口の社会的属性

(1)　配偶関係

若い年齢層で未婚率が上昇

昭和60年10月1日現在における15歳以上人口の配偶関係をみると，男子は15歳以上人口

図－8　年齢（5歳階級），男女別人口及び有配偶者数　―茨城県
（昭和40年，昭和60年）



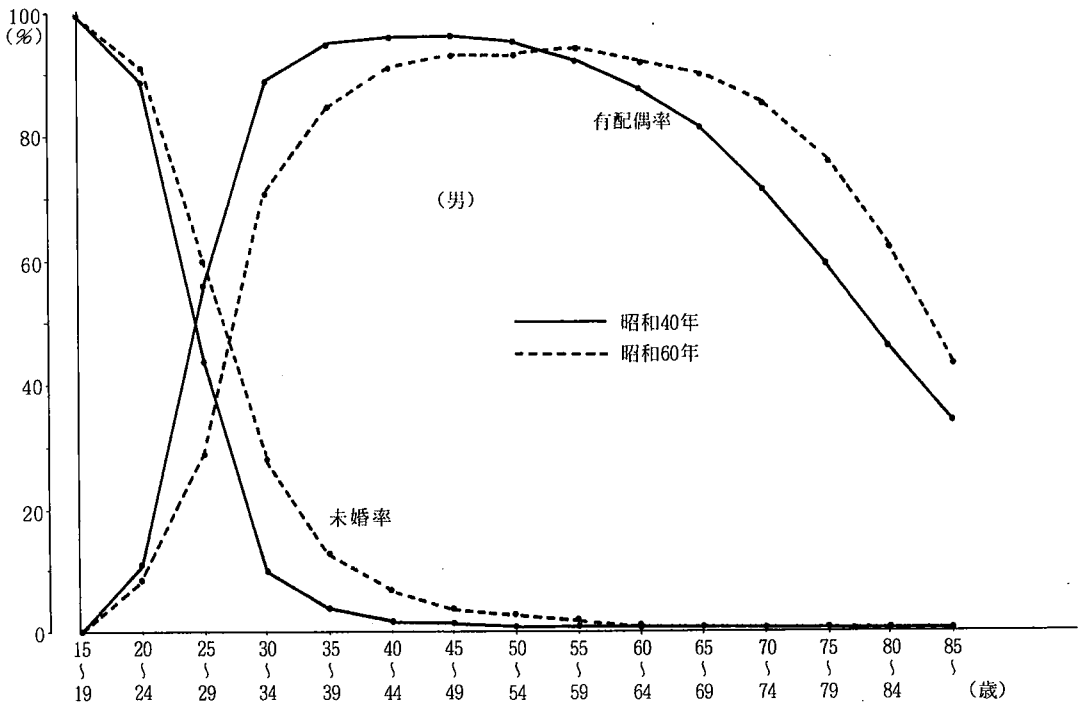
1,036,773人のうち未婚者が292,266人で15歳以上人口に占める未婚者の割合（未婚率）は28.2％，有配偶者が702,069人で有配偶者の割合（有配偶率）67.7％，死別者及び離別者が41,418人で死離別者の割合（死離別率）4.0％となっている。一方，女子は15歳以上人口1,060,427人のうち，未婚者が204,820人，未婚率19.3％，有配偶者が700,765人，有配偶率66.1％，死離別者153,961人，死離別率14.5％となっている。

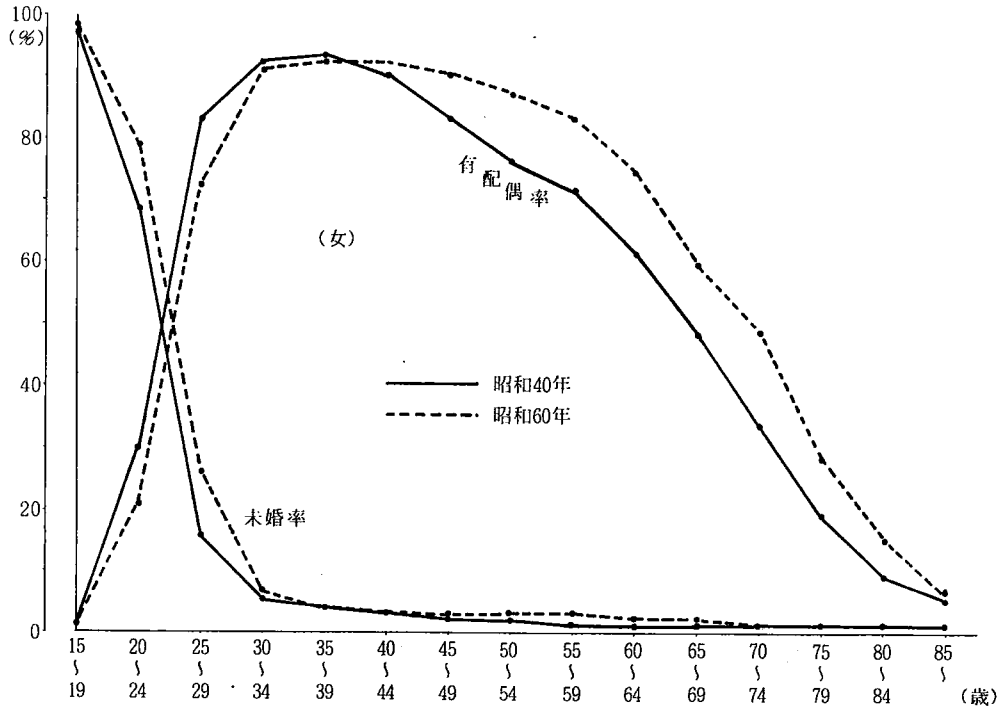
これらについて，男女の差をみると未婚者数は男子が87,446人多くなっている。これは，主として結婚年齢の男女差によるためと思われる。今回は前回（男子が女子より61,493人多い）の差より，25,953人，男子がさらに大きくなっている。

有配偶者数は封鎖人口であることなど一定の下では男女同数となることが期待されるが，実際は男子が女子より1,304人（前回は女子の方が男子より104人多い）上回っている。これは男子の単身赴任で，転出より転入のほうが多いことを示していると思われる。特にこの状況を市町村別にみると，桜村（614人），神栖町（318人），鹿島町（275人），谷田部町（259人），東海村（206人），土浦市（164人），総和町（147人），下館市（110人），阿見町（108人）の市町村で，男子が女子より100人以上多い結果になっている。

次に，死離別者数は女子が男子より112,543人多くなっており，前回（97,026人）よりさらに15,517人増加している。これは，男子と女子の平均余命に加えて，配偶者間の年齢差などが重なっている結果と思われる。

図－9　年齢（5歳階級）別未婚率及び有配偶率 ―茨城県





また，5歳階級別未婚率を昭和40年と今回とで比較すると，男子の場合，25～29歳階級で昭和40年の43.8％から今回は60.0％へ上昇し，30～34歳階級でも9.9％から27.7％へ上昇している。一方，女子も20～24歳階級で昭和40年の69.4％から今回78.5％へ上昇し，25～29歳階級でも16.3％から26.6％へ上昇している。男女とも若い年齢層の未婚率の上昇がみられる。特に女子は大学，短大など上級学校への進学率の上昇や社会進出の増加等に伴って結婚年齢が高くなる傾向にあるように思われる。（図－8，図－9）